

同窓会会報

第 25 号

平成 8 年 3 月 1 日
静岡県三島市文教町 2
日大三島高校同窓会 発行



破壊と創造

会長 高田菊平

平成 7 年は大変な年だった。なんでも亥年は、その歴史をふりかえってみると、どうも破壊が生じた出来事の多い年のようなだ。平成 7 年 1 月 17 日に発生したあの痛ましい阪神大震災、サリン事件にみられる破壊活動、金融機関の神話の崩壊、戦後最高値の円レート等々、問題の多い年となり経済状況は依然として低迷を続けた年であった。

そして今年は子年、十二支の始まりの干支であり、ねずみのその繁殖力の旺盛さからか“繁栄の年”と云われている。そうありたいと願わざにはいられない。

昔から“創造は破壊から始まる”と言われますが、何か新しい事をしようとするときそこにある既成概念を壊していく勇気がなければむずかしい。今まで良しと思って来たことを否定してかかる。そしてそこに新たな創造をしていく、これが改革である。まさしく今私達のまわりには改革という言葉にふさわしい世の中の大きな変化を理解しなくてはならない。そこでは今までに経験したことのない痛みを感じ、新しいルールや秩序をつくり出

す為の生みの苦しみを味わうことになるだろう。

平成 7 年はまさしくその過程にあったような気がする。政治的には連立政権という新しい枠組のなかの葛藤、バブル崩壊による景気の大きな後退、そこから生まれた金融不安、貿易黒字を攻撃され最高値の円レート、そこから生まれた価格破壊や産業の空洞化等々まだまだ新しい秩序を求めて大きく変化が進んでいる。

ごく身近な例で言えば、ガット・ウルグアイラウンド合意による米の部分自由化、新しい食糧法による米の取引売買の自由競争、お米をとりまく流通経済の仕組が大きく変化してきた結果として、私達はどこでも手軽に米が手に入るようになった。これがそのまゝ新しい、秩序になるかどうかまだまだわからない。これには又、いろんな立場での苦しみがともなっている。

今私達はこの変化のはげしい現実を直視し、そして自ら新しい創造を求めて行動をおこさなくてはならない時にあると思う。

そんなことを感じる昨今である。

同窓会の会員の皆様におかれましてもこの激動の時代を賢明に判断されておられることと思いますが、より一層の御健闘をお祈り申し上げます。

(平成 8 年 1 月 18 日)

第 1 期生・ニューデルタ工業株式会社社長

(三島市梅名)

第三体育館
武道館
完成



「同窓会との連帯感を」



校長 戸 花 時 保

日本大学校友会組織は総括本部としての校友会本部の下に、全国都道府県の65の支部会、そして14学部会及び通信教育部会、更に法曹会、会計人会、桜師会の三職域部会がありますが、これらはそれぞれの支部ごとや職域ごとの部会では活動しておりましたが、その枠を越えた全般的な校友会活動は今までありませんでした。ところが「大学冬の時代」を迎える今、真に大学が発展するためには、校友会活動を通して学生及び教職員と校友との間に総合大学としての連帯感、帰属意識を強める必要性が高まって来たと判断し、校友75万人の組織の主要な地位にある人々に集まって頂き全国的な校友会活動をスタートさせようという趣旨で、この度1月26日に、ホテルオークラ平安の間で、全国校友の政界、財界、官界をはじめ、法曹、芸術、文化、教育、マスコミ、スポーツ等あらゆる方面で活躍している名士を一堂に会し「オール日大チャリティー名士(名刺)交歓会」を実施致しました。

日本を動かしている各方面にわたる有名人の校友達が

一堂に会し日本大学を卒業した事への誇りを高らかにうたいあげました。

日本大学校友会が、この様な画期的な企画をたて、実施したのは、今後の日本大学発展のためには、校友の力添えがなければ真の発展はないし、日本大学卒業生には、尚一段の活躍を期待したいとの趣旨だと思います。やつと大きな船が動き出したという感じです。

本校の同窓会はすでにその主旨に添って動き出していて、あらゆる面で学校への協力、援助を頂いていますし、同窓生の皆様は地域社会は勿論のこと、日本の全国で指導的役割を担っていらっしゃいます。

本校も皆様の付託に応えるべく鋭意努力を致しており、この度、第3体育館の竣工を見ることが出来ました。2号館と6号館への立派な渡り廊下及びトイレの増設も完成し、平成8年度からサテライトスタジオを開設し、生徒の実力養成に邁進することに致しました。

今年度の進学率も80%に近い数字になり、昨年よりもパーセントだけでなく内容も充実した進学率になって参りました。静岡県も、全国的な流れである少子時代に入り、平成7年度の中學卒業生が3千人も減少する状況でレベルを落とさず募集人員を確保するには、学校の努力は勿論ですが、同窓の皆様にもそれぞれの立場で社会に貢献するご活躍を頂くことが、本校の評価を高めることにもつながるのではないかと考え、皆様方の尚一層のご活躍、ご発展を期待致しております。



夢の実現へ向けて

副会長 奈良橋 慶 行



卒業生の皆さん同窓会入会おめでとうございます。

学園での三年間はいかがでしたか。思い出多い青春を送られた事と思います。今は春からの進学、社会での新しい生活に胸躍らせるような期待を抱いている事でしょう。私も高校時代には多感な時期を共有した友を得、今まで多くの同窓会会員の皆様と共に同窓会活動を通じ“絆”的意味をかみしめている次第です。数多くの会員の方々が多方面において活躍され

ており日本大学三島高等学校同窓会としても喜ばしい限りです。多くの有能な人材を育成し世に送り出して来た趣のある日本大学三島高等学校の同窓会の会員として入会する訳です。新入会員の皆様も新しい夢と希望をもってその夢が実現されます様、心より応援しております。

第4期生(工業1期生) 東陽社常務(長泉町)



入会式風景

クラス幹事

—男子—

- 1組 大川 浩史
2組 山崎 紀和
3組 内田 修
4組 小山 徹
5組 大森 一樹
6組 森 洋一郎
7組 高野 秀和
8組 曾根 広嗣
9組 服部 幸也
10組 河合 裕
11組 三田 久戴
12組 池野 裕介
13組 菊地 修司

—女子—

- 14組 飯田 みゆき
15組 野崎 千里
16組 池田 麻衣
17組 佐藤 玲美
18組 宮崎 直子
19組 斎藤 美和
20組 佐野 由佳
21組 中條 靖子



以上の人たちがクラス幹事となりました。クラス幹事の仕事は、将来、クラス会を開く時のまとめ役です。第二回目からはまた他の人が引き受けるなど、順番制にするのも一つの方法です。それぞれのクラスを思い出として、よき人生を歩んでください。

各支部長一覧

支部名	三島	田方	沼津	御殿場	富士	富士宮	静岡	熱海	小田原
氏名	田中哲雄	山田守宏	今井信之	武藤康徳	西村雅幸	秋山一雅	大澤貞夫	谷口俊司	川口功一
住所	三島市泉町一二一三三	田方郡大仁町立花三一一三三	沼津市市場町一〇一	御殿場市新橋一九六七	富士市横割六一一一五	富士宮市浅間町四一一五	静岡市下川原二五一	熱海市上多賀九二〇一	小田原市東町四一五一一〇
TEL	(〇五五九)七三一〇五四〇	(〇五五八)七六一五〇〇二	(〇五五九)三一一七八七八	(〇五五〇)八二一二二四八	(〇五四五)六一一五一七五	(〇五四四)二六一三八四八	(〇五四二)一五九一四〇五九	(〇五五七)六八一四〇二二	(〇四六五)三四一三五三七

入会にあたり

最善をつくす

36期生代表

佐野由佳



私たち、平成7年度卒業生は、3年間の教育課程を全て終了し、日大三島高校での3年間の教えを胸に、第36期生として同窓会に入会させていただくことになりました。

日大三島高校には、長い歴史と共に、各界で活躍されている大勢の先輩方がいらっしゃいます。そんな先輩方の話を耳にすると、あらためて本校の素晴らしいことを実感いたします。

私たちは、何もわからないままに今まで歩んできました。自分の目標を探し、それを達成させるために努力するのが精一杯で、周りに多くの仲間たちがいることを忘れていました。また、私たちの前を歩いていらっしゃ

る先輩方のことを考えるゆとりがありませんでした。

しかし、今、こうして卒業を前にしてみると、今日の私があるのは、こうした先輩方や仲間たちの力があったからこそなのだということを痛切に感じます。

私たちは、今、それぞれの道を歩み出します。そして、これからは、日大三島高校の同窓会の一員として、後輩たちのために風雨をよけられるような存在にならなければなりません。そのためにも、先輩方の御指導を得てがんばっていこうと思っていますが、社会に出れば、世間の荒波にもまれ大きな壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時こそ、日大三島高校での体験をいかし、それらの壁を乗り越えていけたら、それはとても素晴らしいことだと思います。

日大三島高校で学んだ様々なことを心の糧とし、その場その場で最善をつくし、日大三島高校の卒業生として恥じぬようがんばりますので、先輩方の変わらぬ御指導のほどをよろしくお願ひいたします。

同窓会入会式

平成8年2月24日



高田菊平会長挨拶

日本大
第36

— 記念講演 —

野球評論家

西本聖氏

テーマ

「私の野球人生」



新入会員代表挨拶 佐野由佳さん

同窓会より

森野拓君・武藤浩子さんに 奨学金がおくられる

同窓会は、表彰規定にもとづき、森野拓君と武藤浩子さんに奨学金（5万円ずつ）をおくることになりました。この奨学金は母校在学中において、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ、有為な人物として校長より推薦された人におくられます。今年はこの二人におくられます。これから的人生に幸多いことを祈念し、二人の活躍を大いに期待します。



森野 拓君



武藤 浩子さん

同窓会より

放送部に

奨励金がおくられる

放送部は、第42回NHK杯全国高校放送コンテストにおいて、テレビ番組課題部門と創作テレビドラマ部門の二部門で文部大臣賞を受賞しました。よって、表彰規定にもとづき、同窓会より奨励金（10万円）が放送部に対しておくられます。放送部が文部大臣賞を受賞するのは10度目のことです。さらなる活躍を期待します。



—— 文部大臣賞のメンバー —— (敬称略)

神田勝先生・葛原志保先生・土屋隆俊・野口健一・杉山佳久・山田卓・原田めぐみ・榎原里紗・坂詰康子・内田愛

同窓会総会

平成7年10月21日
於：田代パレス



左・会長
高田菊平氏挨拶



右・会のおわりに
校歌を歌う

平成7年度の総会は、10月21日、いつもの田代パレスにおいて開かれた。多くの同窓が集まり、右の事業報告に記載されている議事が審議され、その後にぎやかに懇親会がおこなわれた。その他、幹事会が年に何度か開かれていて、同窓会の運営の基本が話し合われている。



放送部を代表して

土屋 隆俊

この度は、伝統ある日大三島高校同窓会より放送部が奨励金を戴くことになりまして、誠に

有難うございます。

私にとって放送部に所属した高校生活は大変充実したものでした。作品を完成させるにあたり、一つのことにも夢中になり、仲間と協力して創り上げることの素晴らしさを教えてくれた放送部。その上、全国優勝までも味わうことができ、高校生活で最高の財産となりました。

放送部は私にとって自分を表現することのできる最高の舞台でした。この様な伝統ある日大三島高校放送部に所属し活動できたことを大変誇りに思っています。放送部で培ったことを心に刻み、自己の無限の可能性へ更なる挑戦をしていきます。最後に、最高の喜びを味あわせてくれた顧問の先生、諸先輩方、有難うございました。

平成7年度 事業報告

- 1 総会 10月21日 田代パレス
 - (1) 会長挨拶 (2) 母校校長挨拶
 - (3) 議事（事業報告・決算報告・規約改定・役員改選・事業計画・予算・名簿発行について）
- 2 幹事会
 - (1) 5月15日 田代パレス
母校運動部顧問激励会・名簿発行について
 - (2) 9月18日 (役員会) 摩天楼酒家
総会準備・役員改選・名簿発行について
 - (3) 9月22日 田代パレス 総会準備・名簿発行について
 - (4) 2月3日 田代パレス
入会式準備・会報発行・表彰について
- 3 事業
 - (1) 2月24日 第36期生入会式 母校8号館
 - (2) 3月1日 同窓会会報第25号発行
- 4 支部
 - (1) 热海 4月1日 魚直
 - (2) 静岡 5月12日 日興会館
 - (3) 沼津 6月16日 ホテル 沼津キャッスル
 - (4) 三島 11月17日 田代パレス
 - (5) 田方 1月27日 長八(大仁)
- 5 その他
 - (1) 事務局 6月20日 蘭
 - (2) 热海・桜樹会 7月21日 季魚喜人

沼津支部
平成7年6月16日
ホテルキャッスル



支部長
今井信之氏挨拶

静岡支部
平成7年5月12日
日興会館



支部長
大澤貞夫氏挨拶



副会長に就任して

久保田 光（1期）

ご卒業おめでとうございます。
平成8年も暮明けとなり、早
や二カ月近くとなりました。昨

年の不況も本年前期までと祈りたいものです。

さて、私事、同窓会総会に於いて、このたび副会長に任せられ、大役を仰せつかることとなりました。大変な栄誉であると思っております。微力ながら母校の発展及び同窓会の浸透に努力し、加えて母校の抱える問題点や、これからの中の同窓会のあるべき姿を模索し解決していくことを思っております。

本校の同窓会員も三万余名を数え、それぞれの支部で活躍しておりますが、一番大切なことは、我々同窓会員が社会の中で、生きていくための心の寄り所でなければなりません。それには、この同窓会の組織を使い、上下左右の関係を活用し、地域での問題点や、母校に対する

要望を、くみあげる機関がなければなりません。この意味で、会員の会への出席増加はもとより、役員の増員の確保をし、地域の活性化を計らなければなりません。また昨今は、学生の人数の減少傾向にあるため、母校がもっと魅力ある高校として存在するために、多数の他大学合格者を出すと言ったような、特色をもった高校にしなければなりません。しかし意図するところの問題点を、クリアするために、設備・環境等が整っていても、この学舎に集まる学生諸君が、これにこたえる素質をもっていかなければなりません。この意味に於いて、将来日大の付属高校として、他に類を見ない高校にするためにも、同窓会員各位の絶えざるご支援ご協力をお願いする次第です。

日大三島高校が、色々な角度から見ても、付加価値のある高校となり、我々同窓会員が、いつも母校に集まり会話できる会室をもち、そして将来のことを考え、希望の森の中で前述したことが育めればと思っております。

終わりに当たり、卒業生諸君のご健勝と母校の発展を祈り、就任の挨拶とさせていただきます。

（東京海上火災・久保田事務所所長）

同窓会雑感

三島支部長

田中哲雄（1期）

第36期ご卒業の皆様おめでとうございます。同時に同窓会への入会を歓迎申し上げます。

思えば、第1期卒業の同期生は既に36年の歳月を過ぎて今年4月以後は全員53歳以上となります。友人達も白髪や禿げも目立つ様になりましたが、多くの人が社会的にも立派に活躍しております。同窓会で友人に会いますと高校時代の気持ちに戻って、昔話や仕事の話に花が咲きます。また、入学当時の先生方は校風厳しき中にも教育熱心で、温情豊かな方々ばかりでしたが、5クラス5人の担任恩師の内、今は数学の中神先生唯一一人となり、時代の移り変わりを痛感する近頃です。

同窓会の10支部は昭和46年度中に結成され玉津元校長先生が会長を務めておりましたが、昭和53年4月に幹事長であった高田菊平氏が会長に就任し、爾来17年間の永きに渡り常に同窓会発展の牽引に尽くされ誠に敬服の限りであります。

私達人間社会は「人」の字の如く家族、友人、知人、

職場等々で互いに支え合って構成されております。今期卒業の皆様には輝かしい前途がある反面、幾多の困難が待っております。困難を乗り越えて行くには自分の努力による克服は勿論ですが、友人、先輩の良きアドバイスにより克服できる事も多くある事を覚えておいて下さい。中でも絆は深く、同じ日大三島高校卒業生ということで、年令に関係無く初対面でも親しみを持って接する事もできます。私自身も同窓会を通じて多くの友人が出来、日々の苦楽を分け合って人生を送っております。まさに「友有りて人生有り」です。

皆様の進路は様々でしょうが、日大三島高校を卒業したという事は生涯変わる事なく、同窓会の終身会員であることも変わりません。

皆様の今後の活躍を祈念申し上げると共に同窓会の場でお会いすることを楽しみにしております。

（三愛設計社長）

テニス部男子全国大会へ

藤井敬樹先生（第6期生）率いるテニス部男子は東海地区予選において2年連続4回目の優勝を飾った。この結果、平成8年3月22日から北九州プリンスホテルテニスセンターでおこなわれる、全国選抜高等学校テニス選手権大会への出場が決まった。この栄光は、8年連続8回目のものである。



共学制に向けて最後の年に

平成7年度3学年主任
渥 美 滋

長く勤めてきましたと、時代の趨勢に従って大小さまざまな節目となる改革や変革に出会うものです。ご存知のように本校も昭和33年4月の創設以来、幾つかの試みがありました。女子部の開設、工業科の開設と廃止等もその一例だろうと思います。私も何度かその節目に遭遇し、その都度喜びや寂しさの気持ちを味わってきました。

今年度卒業していく3年生がやはり節目となる年となり、私も同じ学年に所属して共に過ごしてきました。長年にわたってなじんできた男子部・女子部が発展的解消となり、男女共学制へ移行の最後の学年となったのです。すでに後輩の1・2年生が共学制で勉強しており、その姿を見て3年生の思いは多少複雑であったかも知れません。また、男子部、女子部にそれぞれ籍をおき、学んだ

同窓生の皆さんにとってもある種の感慨があるかも知れません。

男子・女子別学の中では、教室と放課後との生活の中では、違った顔が見られました。教室の中では誰にも遠慮や気がねのいらない、のびのびとした雰囲気が見られたのですが、放課後等の諸活動では男女互いに混じり合い、教室で見られぬ態度に様変わりです。それは私たちにも、ほほえましい光景として目に映りました。互いに遠慮のなかった教室から、けじめをつけた態度に変わったのが放課後の活動でした。おそらく多くの先輩の方々の中にも、懐かしい思い出として別学であった往時を呼ばれる方がいるかも知れません。それもこれもこの春卒業していく3年生をもって最後となりました。「共学」が一概に「どちらがどう」と言えるものではありません。しかし、今後共学の中で後輩たちはしっかりと勉強に諸活動に励んでくれるでしょう。節目となった今年、これまで味わったと同様に、多少の寂しい思いと、これから展開に期待をこめながら、皆さんの後輩たちを見ていきたいと思います。



田方支部会をひらく

支部長 山田 守宏（3期）

平成8年1月27日(土)、田京の「長八」において支部会をもちました。「年に一度は顔を合わせよう」ということにしていました。そこでやはり同窓生である「長八」に集まりました。田方支部は、函南・韮山・長岡・大仁・修善寺・中伊豆・湯ヶ島の、7地区から成り立っています。このように地域が広く大変な面があります。これからはなるべく各地区を中心とした集まりを中心に考えていきたいと思っています。その方が、日頃のつき合いという同窓生としての基本が、自然に実行できると思うからです。それに、今年の卒業生は36期にあたるということです。先輩、後輩の年齢も大きくなれてきました。そこに、同窓会活動のもう一つの面があります。その両面をうまく利用した支部活動を望みます。今回も、何となく気心の知れた者が集まって、楽しいひと時を過ごしたわけですが、そのところに同窓会の意義が存在しているわけです。細く長いつき合いをしながら、お互いに各地区の中で日大三島同窓生としての誇りを持って活躍してほしいと思います。

なお、平成8年6月22日(土)、午後6時30分より、大仁洋らんパークにおいて、田方支部の総会を開きます。皆様のご協力と参加のほどを、お願いいたします。

(駿豆建設専務)

同窓会規約の改正

同窓会は、平成7年度総会において「第三章 役員」「第二十一条」の項の改正を、下記の様に決めました。

〔旧規約〕

会長一名 副会長二名 幹事長一名 副幹事長二名
幹事 常任幹事 会計監査二名

〔新規約〕

会長一名 副会長四名 幹事長一名 副幹事長三名
常任幹事、幹事 会計監査二名

（改正日 平成7年10月21日）

事務局からのお願い

支部会はもちろんのこと、各期の同期会やクラス会など、同窓生としての集まりをもった時は、ぜひ、母校事務局までお知らせください。写真や原稿を載せて紹介したいと思います。（〒411・三島市文教町2-31-145
日大三島高校同窓会事務局 TEL 0559・86・5503）

右写真

田方支部会

平成8年

1月27日
田京「長八」
にて



日本大学三島高等学校

同窓会規約

第十四条
幹事会は、本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第三節 支部会

本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもつて正会員とし、現教職員および元教職員をもつて特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのつとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することをもつて目的とする。

第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第一節 総会

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局

五、編集委員会

第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもつてこれを決する。

但し、必要により各支部を代表する支部長をもつて、総会の決議にかかることができる。

第八条 総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。

第九条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項に關し、会長が認めた時、又は会員多数の要求があつた場合、会長は臨時に召集しなければならない。

第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。

一、予算・決算に関する事。

二、事業計画に関する事。

三、会則の改廃に関する事。

四、その他、第五条によつて必要と認めた事項。

第十二条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があつた場合は、臨時に幹事会を召集しなければならない。

幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

表彰規定

前文 本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章三十一条に基き、その適用細則を定めたものである。

第二章 奨励金

事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。事務局は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十七条 第十八条 第十九条 第二十条 第二十二条 第二十三条 第二十五条 第二十四条 第二十六条 第二十七条 第二十八条 第二十九条 第三十一条 第三十二条 第三十三条 第五章 表彰・その他 第三十四条 第六章 附則

編集委員会は幹事会に所属し、原則として年一回の会報発行、その他、本会運営上、必要な広報の任にあたる。

編集委員会は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第三章 役員

本会は左記の役員を置く。

会長一名 副会長四名 幹事長一名 副幹事長三名 常任幹事、幹事、会計監査二名

会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもつて選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。

幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。

副幹事長は幹事長を補佐する。

幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。

常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第四章 会計

第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもつてこれに当てる。

正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第三十一条 第三十二条 第三十三条 第五章 表彰・その他 第三十四条 第六章 附則

本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。

顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

(一) 奨励金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。奨学金又は奨励金を支給することができる。

(二) 奨励金の支給をうける者は、生徒会所属の団体で顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

付 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。